



び ぶ り お

University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.35 No.3 (No.135) August 2002

「文献で見る沖縄の歴史と風土—琉球大学附属図書館貴重書展」を終えて

池宮 正治

今年2月6日(水)から11日(月)までの6日間、パレットくもじりウボウホールで「文献で見る沖縄の歴史と風土—琉球大学附属図書館貴重書展」と銘打って、本学図書館初の学外図書展示会を催した。この種の企画としては異例の大好評で6日間で2千人の人々が参観した。本学図書館は知る人ぞ知る貴重図書の宝庫で、今回の企画展はその一端を広く一般の人々に知らせるのに役立ったことと思われる。

今回はあまたある貴重書を、一「おもろさうし」、二「近世の琉球国」、三「江戸上り」、四「来琉外国人」、五「明治政府と琉球処分」、六「大正時代の風俗」、七「海外移事情」、八「八重山の地方文書」、九「沖縄の芸能と工芸」、十「インターネットと沖縄関係電子化資料」と、10分野にわけて紹介している。

一の「おもろさうし」は、沖縄学の父といわれる伊波普猷が秘密の扉を開いて以来常に沖縄研究の前衛でありつづけているのであるが、その中でもっとも重要な役割をになった写本が、本学図書館所蔵の仲吉本と田島本である。大正14年柳田国男の周旋を受けて帝国学士院の補助を得て三冊本として刊行され、その普及

が図られた。この時底本となったのが仲吉本で、伊波の沖縄中学での恩師田島利三郎が県庁にあった『おもろさうし』を筆写し、王府おもろの歌唱の家である安仁屋主取家に伝来していたいわゆる安仁屋本との校異を示した、学術的に価値の高い田島本も伊波普猷文庫にある。今回は仲吉本、田島本、伊波の活字本「校訂おもろさうし」のほか、戦後のおもろ研究をリードした仲原善忠自筆の「仲原本」、関連して田島本の「混効験集」、仲宗根政善の原稿や研究ノートが出品された。

二「近世の琉球国」のコーナーには16点出品、そのうち伊波文庫の「喜安日記」は、島津入り



目次

「文献で見る沖縄の歴史と風土—琉球大学附属図書館貴重書展」を終えて……池宮正治	1	電子ジャーナルの使い方 ……………	6
故崎原貢氏寄贈資料受入について…松原敏夫	4	電子ジャーナルについて利用者の声 ……	7
		お知らせ ……………	8

附属図書館のホームページ (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

当時の琉球側の唯一の日記であるが、いくつかある「喜安日記」でもっとも善本である。「聞得大君加那志様御新下日記」は道光20（1840）年の聞得大君御新下りのさいの大里間切の記録で、この種の唯一のもの、しかも鎖印も認められる原本である。伊波文庫蔵「遺老説伝」（四冊本）は原本に近い善本で、戦前に島袋盛敏がこれを底本に訓読刊行しているし、近年も嘉手納宗徳がやはりこれを底本に刊行している貴重図書。なお伊波文庫には一冊欠けるものの「法司之印」の墨角印が認められる、つまり1745年成立当時の原本がある。「遺老説伝」は正史『球陽』の外巻であるが、本体の「球陽」の原本はこれに近い善本さえも見いだされてなく、これは原本の面影を伝える唯一のものであって、県指定に十分たえうる貴重な文化財である。「久米仲里旧記」は仲原善忠旧蔵、嶽々の由来や祭祀、歌謡、口承の説話などが記されている。康熙52（1713）年編纂の「琉球国由来記」の素材の一つになったものと考えられていて、「由来記」の成り立ちを考える上でも重要な文献である。「那覇座検者方規模帳」は租税物品の検査にあたってのマニュアルである。同治13（1874）年の筆写で、資料としては新しいが、他に例を見ないものである。昨年、ハワイ大学の教授やハワイの私大学長をつとめた崎原貢氏が文庫を本学に寄贈された、その中の一冊である。

三の「江戸上り」関係の資料はそれほど驚くべきものはないが、原忠順旧蔵「江戸上り文書献上品目明細書付」（仮称）は寛政2（1790）年の江戸上りの記録で、使者の官名・氏名、献

上品の内容などが記されている。伊波文庫の「琉球国来聘記」は天保3（1832）年江戸上りの記録である。例によって使者一行の氏名や官名や献上物・拝領物などが描かれ、後半で路次楽人の帽子や傘、帽子や服装、路次楽や座楽に用いられる中国楽器、竹を割って作った護衛用の棒「鞭」や儀仗用の道具類が彩色されて紹介されている。仲原文庫蔵の天保四年とある「琉球人帰国に付国役金の記録」（仮称）には、琉球人の江戸上にさいして道路の整備、人馬の提供を求める費用として、石高に応じて国役金を課していることがわかる。他に行列の刷り物など9点が出ている。

四「来琉外国人」では、近世末期琉球に来航した欧米人の航海記の原書を中心に出品している。1771年に奄美に来航したポーランド士官ベニョスキー伯の回想録「ベニョスキー伯航海回想録」をはじめ、1787年に来航した仏人ラ・ペルーズ「世界周遊録」、英海軍バックスの「東洋の海」（1875年）、英宣教師ギュツラフの「東支那海沿岸航海日誌」（1834年）、僧正ジョージ・スミスの「琉球とその人々」（1853年）などである。イギリス海軍ライラ号の艦長だったバジル・ホール中佐の航海記「朝鮮西部沿岸及び大琉球島航海探検記」（1818刊）は、1816年に琉球に来航した時のものである。琉球の人々との心温まる交流が感動的に描かれ、これが大きな反響を呼び数カ国語に翻訳された。航海記の第三版（1826年）には、セント・ヘレナに幽閉されたナポレオンとの対話のなかで、武器や戦争のない琉球のことが紹介され、そんな国があるのかとナポレオンを驚嘆させた話はあまりに有名。その他日本開国の直接の契機をつくったペリー提督の「日本遠征記」などである。

五の「明治政府と琉球処分」のコーナーには、琉球の廃藩置県つまり明治12年の初代県令となった鍋島直彬とその右腕原忠順にかかる日記や書簡、漢詩などを中心に、明治政府の処分官松田道之の「琉球処分」、同じく松田の「奉仕琉球始末」、喜舎場朝賢の「琉球見聞録」など13点が供せられた。

六「大正時代の風俗」のコーナーには米人宣教師E・R・プールのコレクションから、ガラス写真六十点のなか



から若干を焼付拡大して紹介している。生き生きとした市井の生活や古い琉球の面影が映し出されている。今となつては貴重な映像資料である。一見カラー写真のようだが、この時期は人手によって後でつける手彩色の時代で、厳密なものではない。実はこの写真は幻灯の種ガラスで、英文の解説文も収蔵されている。

七は「海外移民事情」。近代沖縄県は貧困に苦しみ、その活路をハワイや南米、南洋群島などに求め、多くの人々が移民出稼ぎに雄飛した。沖縄県は我が国でも代表的な移民県なのである。出品は10点、崎原貢文庫から雑誌「南鵬」創刊号（大正14年）、ウルマ青年会の文集「ウルマ」（昭和10年）、与世山智郎著「布哇の日本人よ」（昭和15年）、矢内原忠雄文庫から矢内原の原稿「南洋群島の研究」、「南洋群島国語読本」などが出ている。

八の「八重山の地方文書」は、本学図書館に収蔵されている宮良殿内文庫の中から12点を選択して出された。宮良殿内は代々頭役を勤める名家で貴重な資料が数多くある。「八重山江一世流刑」（手形）の一枚文書は、1854年ペリーが開国を迫って日本へ遠征中、水兵ボードが民家に押し入り婦人を暴行、住民に追われて海に転落溺死する事件が発生する。戻ったペリーは王府に犯人の引き渡しを強く迫り、王府は仕方なく「かま渡慶次」なる犯人を仕立て、架空の「布政官」や「志喜屋里之子親雲上」といった官職と人物、「琉球国中山府知府之印」というこれまたニセの印章まで捺して八重山の頭に送ったのがこれである。この一枚、わずか一枚の文書であるが、歴史の刹那を鮮やかにあぶり出す貴重なもので、今年沖縄県の復帰30周年記念特別展「資料に見る沖縄の歴史」（県公文書館、5月1日～31日）にも貸し出された。その他「八重山島諸座御規模帳」、「八重山島蔵元公事帳」、家庭祭祀の膳配りなどの記録「祭之時膳符日記」など12件が出された。

九の「沖縄の芸能と工芸」には、三線の楽譜である工工四のもっとも古いものである「屋嘉比工工四」（伊波文庫蔵、県重要文化財）、琉歌集「琉歌百控」、「組踊集」、石沢兵吾著「琉球漆器考」、山村耕花の「紅型」など九点を出している。

十が「インターネットと沖縄関係電子化資料」で、このところ本学図書館が推進している「沖



縄学総合データベース」化作業の一端を紹介したものである。

大急ぎで初めての試みである学外での収蔵図書展示サービスの内容を紹介した。しかし今回出品されたもの以外にも本学図書館には貴重書がまだまだかず多くある。思いつくままにいうと、例えば「久米島具志川間切規模帳」「久米島具志川間切公事帳」（1831年筆写）は例の「法司之印」のある原本であって、研究者にとって資料は原本ほど尊いものはない。宮良殿内文庫には、近世琉球最大の書家鄭嘉訓・古波蔵親方の書巻がある。図書館に入ったときに手習い用のもののように新聞記事に出たため、不幸な評価を受け無視されているが、始めに関坊印末尾に二顆の朱角印があるりっぱなもので、「発見」とも言える逸品である。ただ状態が悪く、今後修理を要する。他に東恩納寛惇が紹介して有名な浦添家本「伊勢物語」（沖縄県指定文化財〔典籍〕）もある。連歌師として有名な牡丹花肖柏の「伊勢物語肖聞抄」の系統の善本らしいが、詳しいことは伊勢物語研究者の今後の評価に待ちたい。ということで、さっそく次回の出張サービスを楽しみにしているしだいである。

最後になったが、ここまで進めるのには綿密な計画と準備が必要だっただろうし、気谷誠課長をはじめ多くの職員の献身的な活動と協力があって実現したのであろうと推測される。B5版32ページのカラー刷りパンフレットも瀟洒で、簡潔に要約された解説がつけられ、できのよいものに仕上げられている。今後大学はよりいっそう開かれたものにならなければならないし、そのさい地域へのサービスは欠かせない。将来の大学のすがたを見据えて、教員をも巻き込んだこうした企画を今後も積極的に企るべきだろう。

（いけみや まさはる：法文学部教授）

故 崎原貢氏寄贈資料受入について

松原 敏夫

附属図書館は、元ハワイ国際大学学長で、昨年1月に亡くなられた故崎原貢氏の蔵書を2002年1月に寄贈受入しました。崎原氏は、1927年那覇市生まれ、那覇商業高校、沖縄外語学校を経て、1951年にオレゴン州立大学留学、1958年ハワイ大学に移籍、ハワイ大学教授を歴任、1995年にハワイ国際大学学長に就任、2001年1月15日にホノルルの病院で逝去されました。ハワイ大学では史学科に籍をおき、琉球史の研究で学位を取得しました。

所蔵していた蔵書は、崎原氏が亡くなられたあと、当初、ハワイ大学ハミルトン図書館に寄贈される話もあったようですが、夫人の崎原正子さんとハワイ東西文化センターのロバート・仲宗根氏の協議により、琉球大学附属図書館に寄贈されたものです。崎原氏は、存命中も、たびたび、沖縄関係資料を寄贈したりして、附属図書館の蔵書の充実にご寄与されていました。

寄贈資料は、図書、雑誌、複製本、パンフレット類あわせて約2400点。故人は生前、琉球王国時代における薩摩藩の貿易政策についての論文「The significance of Ryukyu in Satsuma finances during the Tokugawa period」(注)で学位をとられた歴史研究家であっただけに、沖縄の歴史に関する資料が多いのが特徴です。

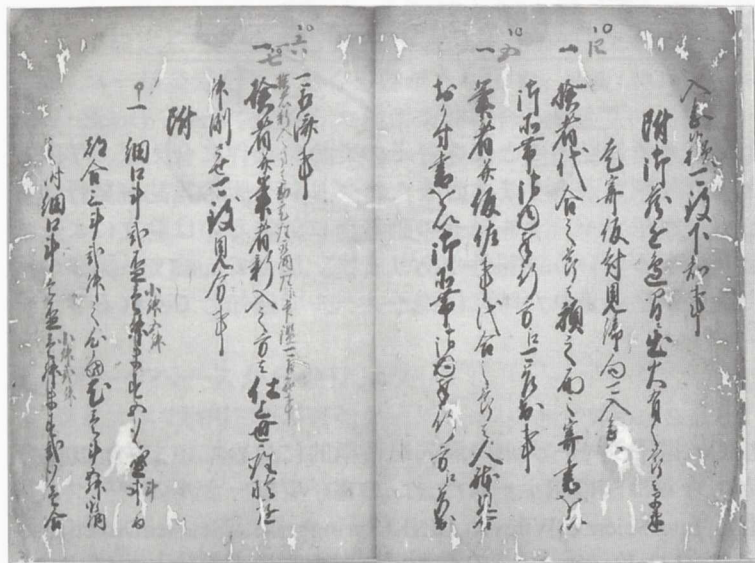
寄贈された資料は、その多くが戦後の刊本であるが、中には、下記に記載するような、琉球王府時代の古文書、現在ではめったに入手できない初版本など貴重なものも入っています。

1. 諸大名花押入琉球御目見得ニ就テノ御状
2. 琉球御届書並御状書
3. 宝永七年庚寅年琉球人来聘記 全
多賀氏常正 筆者志賀氏 (1710年)
4. 琉球板六論衍義 欠あり
5. 同治八年琉球本人々案文
6. 那覇座検者方規模帳 同治拾三年甲戌卯月
那覇座検者方 (1874年)

7. 模合起請書 文政三年琉球記録 (1820年)
8. 宝永七年琉球人聞書 (1710年)
9. 琉球郵耗
10. 琉球国使浦添王子作文
11. 琉球国英仏人二対スル事実具申
12. 琉球英仏船渡来記録 弘化三丙年五月
(1846年)
13. 琉球一件 植崎九八郎 上申書 文化元年
(1804年)
14. 同治八年琉球本評定所科文 二冊 (1869年)
15. 琉球攻薩摩軍記 全 明治3 写本 草間代治
16. 沖縄県防空監視隊服務規程 昭和14年 沖縄県
17. おきなほ 第2巻第3号 大正3年3月
おきなほ社 (喜納朝淳)
18. 美里村上方人会拾周年記念誌 1940年7月
19. ウルマ 第一号 1935年12月 ウルマ青年会
ガリ刷
20. 沖縄新公論 第1巻第4号 大正6年4月
21. 沖縄新公論 第1巻第5号 大正6年5月
22. 南鵬 創刊号 大正14年12月 沖縄県海外協会
23. 南鵬 第2巻第1号 大正15年12月
沖縄県海外協会
24. 沖縄及沖縄人 6月号 大正15年6月
埼玉公論社 (大宜味朝徳)
25. 沖縄及沖縄人 7月号 大正15年7月
埼玉公論社 (大宜味朝徳)
26. 古琉球 1911 (明治44) 初版 伊波普猷
27. 南島探検 1894 (明治17) 初版 笹森儀助
28. 琉球浄瑠璃 明治22年 松山傳十郎

これらの貴重な資料については、一般への紹介を目的に、2001年12月12日に、教育学部の豊見山和行助教授の説明で、報道関係者を呼んで、記者会見を行いました。この模様は、テレビや、新聞で報道され、資料の存在を江湖に広く知らしめることになりました。

豊見山助教授によると、「那覇座検者方規模帳 (なはざけんじゃかたきもちょう)」という文書は、これまで尚家の目録などで、存在が知られて



▲那覇座検者方規模帳

いたが初めて現物が見つかったという貴重なもので、内容は、琉球王国時代、庶民が王府に納めた穀物を管理する職員の業務規定を記したものの、このなかに「ムギヤマメを倉庫に収める場合、乾燥具合を調べるため前歯で二つに割ること」などと記され、まさに「琉球王国時代の状況を知る一級史料である」とのことです。また、庶民の模合について記した「模合起請書（もあいきしょうしょ）」（19世紀ごろ）は、読谷間切波平の当間さん方に、銅銭二十貫文ずつを持って集まった、などと記載、「迷惑をかけないと誓約する」と模合仲間らしき三人が印鑑を押した個所があったり、当時の庶民金融をみるのに興味深い資料です。

「那覇座検者方規模帳」と「模合起請書」「南嶋創刊号」「ウルマ」「美里村上方人会拾周年記念誌」「ハワイの日本人よ」（1940）は、当時、進めていた、琉球大学附属図書館貴重書展「文献でみる沖縄の風土と歴史」（平成14年2月6日～11日、リウボウホール）で、他の貴重資料とともに展示し、見学者の興味をひきました。

崎原貢寄贈資料は装備の段階で、書架のなかで識別できるように、背表紙にラベル「崎原貢寄贈」を貼付し、奥付けに、「崎原正子氏寄贈」という寄贈者名をスタンプで表示しました。沖

縄に関する資料は沖縄関係資料室に配架しましたが、副本は沖縄関係開架資料室に配架しました。とくに貴重な資料は、「崎原貢文庫」として1階の貴重書室に保管しています。

（注）崎原貢氏には、このほかに「沖縄の宗教と社会構造 / W.P.リーブラ著」（崎原正子と共訳・弘文堂-1974）、「がじまるの集い：沖縄系ハワイ移民先達の話集」（がじまる会-1980）、「アメリカの大学と少数民族そして沖縄—沖縄国際大学公開講座—」（沖縄国際大学公開講座委員会-1996）等の著作がある。

（まつばら としお：図書館専門員）

2002年度 貴重書展開催について

2001年度貴重書展「文献に見る沖縄の歴史と風土」は、これまで毎年図書館内で行っていたものを館外で行う初めての試みでしたが、6日間で約2千人の来場者という大きな反響いただき、アンケートにも、「大変貴重な資料を直に目にすることができ感銘した」「展示会を見て、これまで感じる事がなかった琉球（人）の偉大さに心打たれる思いがした。大きな反省のきっかけをつかんだ」「大学にある知識の集積を今後もこのように披露してほしい」などの熱心な感想や質問をお寄せいただきました。本当にどうもありがとうございました。今回の貴重書展の内容は図書館ホームページにて公開しておりますのでご覧下さい。また、多くの方から今後も開催を望む声をいただいていることから、次回貴重書展も、那覇市リウボウ7階リウボウホールにて、2003年2月上旬に開催することに決定いたしました。詳細につきましては、『びぶりお』を始め、図書館ホームページや新聞・ラジオ等でお知らせいたします。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

電子ジャーナルの使い方

1 電子ジャーナルとは

電子ジャーナルとはインターネット上で読める雑誌のことです。そのために条件に合えば、学内どこからでも、いつでもアクセスできるという便利さがあります。また、プリント版の雑誌が発行から図書館に届くまで時間がかかるのに対して、電子ジャーナルはその到着前に、あるいは論文によってはプリント版が発行される前に読むことができるという速報性があります。加えて、論文・記事の検索が簡単にできますし、条件を指定した論文が搭載された時には電子メールで通知してくれるアラート機能も備えています。

2 利用できる電子ジャーナル

図書館では沖縄の地域的特性を考慮して、電子ジャーナルの導入を積極的に進めています。2000年はSD、2001年はIDEALを導入しましたが、今年は図書館ホームページの電子ジャーナルのページに掲載されている、IDEAL(Academic Press他)、InterScience(Wiley)、LINK(Springer他)、ScienceDirect(Elsevier他)、Blackwell(HSS Collection)、Oxford University Pressの電子ジャーナルの大部分と、プリント版を購入すると閲覧できるその他の電子ジャーナルまでを含めて約2900誌がフルテキストまで見ることができるようになっています。

3 論文への基本的なアクセス方法

3.1. Browse：雑誌名から検索していきます。

図書館ホームページ → 電子ジャーナル → (システム・出版社ホームページ) → Browse → 雑誌名リスト → 当該雑誌のトップ画面 → 当該巻号の目次画面 → 論文・記事

3.2. Search：キーワードなどで検索します。

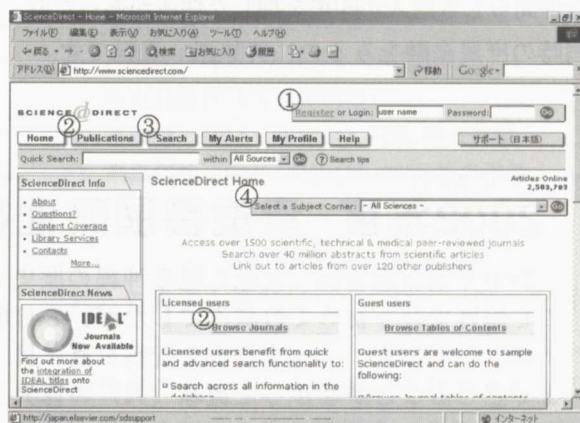
図書館ホームページ → 電子ジャーナル → システム・出版社ホームページ → Search → キーワードなどの入力 → 該当記事・論文リスト → 論文・記事
(検索範囲は同一システム内の雑誌に掲載されたものに限られます)

4 SD : Science Direct の使い方

代表的な電子ジャーナルのシステムであるエルゼビア社のScienceDirectを例に利用方法を説明します。

4.1. SD ホームページ (右図)

- ・ Resister or Loginでユーザ登録を行うと個人のジャーナルリスト登録や検索式の保存、アラート機能が使えます (①)。
- ・ Browseを行うにはPublicationsのタグかLicensed userのBrowse Journalsをクリックします。以降は上記の3.1の手順に同様です (②)。
- ・ SearchをおこなうにはSearchのタグをクリックします (③)。
- ・ Select a Subject Cornerでは検索対象分野を指定できます (④)。



4.2. 検索のページ

- ・ Basicは複雑な検索式は不要、キーワードや雑誌のタイトル等の入力で検索します。
- ・ Advancedはフィールドの限定、論理演算子、近接演算子、トランケーションを利用した高度な検索が行えます。「サポート (日本語)」をクリックするとマニュアル、検索例などがあります。
- ・ Recall searchで保存した検索式が呼び出せます。
- ・ Search Historyで保存してある検索履歴を編集・削除・再実行できます。

4.3. 電子メールアラート

設定した条件に合う新しい論文がシステムに搭載された時に、電子メールで通知する機能です。ユーザ登録をしておく必要があります。変更はMy Alertsのタブをクリックして行います。

- ・ Search Alerts：登録した検索条件に合った論文の通知。
検索結果の一覧表示の画面で登録します。
- ・ Citation Alert：指定した論文が他の論文に引用された時の通知。
論文閲覧画面のactionのボックスで登録します。
- ・ Journal Issue Alerts：登録したジャーナルの新しい号が搭載された時の通知。
ジャーナルのトップ画面で登録します。

5 データベースからのリンク

琉球大学で利用できる書誌データベースの中でWeb of Science、 ERL系のデータベース（BA、 BA/RMM、 MEDLINE、 PsycINFO）からは検索結果から直接電子ジャーナルにリンクが張られているものがあります。それぞれ VIEW FULL TEXT、 Link to というボタンが表示されますので、クリックするとフルテキストの画面にとんでいきます。

6 電子ジャーナル利用説明会

附属図書館では電子ジャーナルの利用説明会を随時行っていますので、電子情報係（内線8167、 2207）までお問い合わせください。電子ジャーナルのページにも開催要項を掲載してあります。

電子ジャーナルについて利用者の声

根拠に基づく医療の実践のための電子ジャーナル

琉球大学医学部医学科保健医学講座 等々力英美

EBM(Evidence-Based Medicine)というキーワードが近年の医療において使われてきている。EBMは「入手しうる最良の科学的根拠に基づき、最善の医療を行うための行動指針」と考えられる。科学的な根拠を基礎に医療を行うのは当然なことであるが、多様な医療情報や、客観的データに基づかない直感的な医療からの転換は容易ではないといわれている。EBMはインターネットの発展に大きな関連があり、特に医療データベースが医療現場において活用可能になったことが大きいと考えられる。さらに電子ジャーナルの普及により最新の一流のジャーナルが即時に手に入り、研究や治療にその内容の結果を生かすことが出来る。

琉球大学では1999年から電子ジャーナルの導入を開始し、私も多めに活用させて頂いている。特に'Web of Science'を併用して、電子ジャーナルを直接ダウンロードが可能で、オリジナルの印刷形態のまま手に入り、図表などが複写したのと同等の品質で読めるのはありがたい。しかし、論文入手のアクセスは容易になってきたが、情報過多になりがちで論文の評価と吟味をきちんと努めるように自戒している。

図書館の重要性

医学部麻酔科学講座 徳嶺讓芳

「利用者の声」というコーナーに、何か文章を書くようにいわれたが、なかなか良いアイデアが浮かばず、とうとう締め切りを越えてしまいました。

しかし、私が図書館に対して言いたいことが全く無いのかと言えばそう言うわけでもありません。つい先日も、私の文献コピーの依頼に対して係員が懇切丁寧に対応してくれて、ああとでも親切だなあと感嘆したぐらいです。そういうわけで、私としては図書館派であり、図書館はたいへん結構という立場のわけです。実際、自分たちの医者の仕事は、知識をよりどころにしているわけですから、知は力であり、その知を得るもっとも効率の良い場所が図書館であるわけです。ですから、図書館を充実させれば、知識が増しそれがまた患者を助ける力の根源となると考えます。私事ですが、二年ほど留学をしていたカリフォルニア大学サンディエゴ校のロゴマークがやはり図書館でありました。大学の中心に巨大な図書館が、真四角でなんの変哲もない他のビルに比べ、それが大学の理念そのものであるかのように、どっしりと頼もしく、美しく空にそびえていたのを思い出します。

昨今、大学の序列化がすすんでいるように見受けられます。大学が存在する意義もまた、問われているのが現代ではないのでしょうか。その中で、自らの血肉となる知識をより効率よく得る手段・場所である図書館は、大学の中心とますます重要になっていくと思われまます。

最後に、個人的な要望の一つ言わせていただきます。それは、電子ジャーナルを一元化し、収録雑誌を増やしてほしいということです。このことは、多分すでに多くの利用者が要望していることと思います。今後の最重要課題として御考慮ください。

お知らせ

本館

8月							9月							10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

・開館時間 通常期：月～金〔黒字〕 8:30～22:00 土日祝〔緑字〕 13:00～20:00 休業期：月～金〔青字〕 8:30～17:00 土日祝〔赤字〕 休館
 ・休館日 土・日曜（夏季休業：8/6～9/30）、振替休日(9/16)、公休日（9/23）琉大祭（11/9～10）
 ※ 年間を通しての開館カレンダーにつきましては、図書館ホームページでご案内しているほか、カウンターにて名刺サイズのカードをお配りしております。

<長期貸出の開始：7月23日から>

8月6日から9月30日は夏季休業のため、長期貸出しを行います。貸出冊数は通常通りで変更はありません。返却期限は、10月8日です。長期貸出した資料については、貸出期間延長の手続きはできませんのでご注意ください。

<定例休館日の廃止について>

今年度（平成14年4月）から、定例休館日（毎月第4木曜日）を廃止しました。

<第236回附属図書館運営委員会：平成14年6月6日>

○協議事項

1. 平成13年度予算決算について
2. 学内刊行物等の収集について
3. 購入外国雑誌について

○報告事項

1. 電子ジャーナル経費について
2. 平成14年度大型コレクションについて
3. 沖縄関係文献資料購入経費について
4. 資料選定委員会について
5. 会議報告

医学部分館

8月							9月							10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

・開館時間 通常期：月～金〔黒字〕 8:30～22:00 土日祝〔緑字〕 13:00～18:00 休業期：月～金〔青字〕 8:30～17:00 土日祝〔赤字〕 休館
 ・休館日 土・日曜（夏季休業：8/6～8/30）、振替休日(9/16)、公休日（9/23）琉大祭（11/9～10）
 ※ 医学部分館につきましては8月のみ夏季休業期扱いです。

<田中龍夫教授が医学部分館長に就任>

平成14年4月1日付けで、武藤分館長に代わって、生化学第一講座の田中龍夫教授が第10代分館長に就任しました。

<附属病院看護部オリエンテーション>

平成14年5月9日（金）と6月7日（金）の2日間、医学部基礎講義棟102教室において、附属病院看護部研修の一環として看護婦（士）40名に対し、図書館の利用と看護文献の検索法について説明を行いました。

<第48回附属図書館医学部分館運営委員会：平成14年7月3日>

○協議事項

1. 書架狭化の解消（和雑誌の本館移動、図書を除籍）について
2. 和雑誌「医学教育」の購読中止について

○報告事項

1. 医学部分館増築について
2. 概算要求（24時間開館）について
3. 電子ジャーナル・サービスについて
4. 看護部オリエンテーションについて

琉球大学附属図書館報「びぶりお」第35巻 第3号（通巻第135号）

平成14年8月1日発行

発行：琉球大学附属図書館 電話 098(895)8168 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町千原1番地